

《応用数学専攻 博士課程後期》

令和 8 年度 4 月入学生を募集する専修部門と主指導教員及び主な研究内容

専修部門	主指導教員	主な研究内容
応用数学	教授 博士(理学) 佐藤 拓	トーリック多様体の双有理幾何的な研究
	教授 博士(数理学) 島倉 裕樹	有限群論に関する研究
	教授 博士(理学) 佐野 友二	ケーラー多様体の微分幾何と複素幾何に関する研究
	教授 博士(理学) 竹田 寛志	調和解析学を用いた偏微分方程式の研究
	教授 博士(理学) 田中 尚人	ナビエーストークス方程式の自由表面問題
	教授 博士(工学) 藤木 淳	コンピュータビジョンおよびパターン認識
	教授 博士(情報科学) 松浦 望	幾何学的形状生成

次頁へつづく

授業科目, 単位, 担当者及び履修方法, 主な研究内容 (令和7年度現在)

※令和7年度開講科目は, シラバス(授業内容含む)をWebで公開しております。「電子シラバス 福岡大学」で検索の上, 参照ください。

研究指導科目

専修部門	授業科目	単位数	担当者	主な研究内容
応用数学	(第1年次) 代数学特別研究Ⅰ	2	教授 博士(理学) 佐藤 拓	トーリック多様体の双有理幾何的な研究
	代数学特別研究Ⅱ	2		
	(第2年次) 代数学特別研究Ⅲ	2		
	代数学特別研究Ⅳ	2		
	(第3年次) 代数学特別研究Ⅴ	2		
	代数学特別研究Ⅵ	2		
	(第1年次) 位相数学特別研究Ⅰ	2	教授 Ph.D 石黒 賢士	分類空間の位相構造に関する研究
	位相数学特別研究Ⅱ	2		
	(第2年次) 位相数学特別研究Ⅲ	2		
	位相数学特別研究Ⅳ	2		
	(第3年次) 位相数学特別研究Ⅴ	2		
	位相数学特別研究Ⅵ	2		
	(第1年次) 幾何学特別研究Ⅰ	2	教授 博士(理学) 佐野 友二	ケーラー多様体の微分幾何と複素幾何に関する研究
	幾何学特別研究Ⅱ	2		
	(第2年次) 幾何学特別研究Ⅲ	2		
	幾何学特別研究Ⅳ	2		
	(第3年次) 幾何学特別研究Ⅴ	2		
	幾何学特別研究Ⅵ	2		
	(第1年次) 関数解析学特別研究Ⅰ	2	教授 博士(理学) 竹田 寛志	調和解析学を用いた偏微分方程式の研究
	関数解析学特別研究Ⅱ	2		
	(第2年次) 関数解析学特別研究Ⅲ	2		
	関数解析学特別研究Ⅳ	2		
	(第3年次) 関数解析学特別研究Ⅴ	2		
	関数解析学特別研究Ⅵ	2		
(第1年次) 応用解析学特別研究Ⅰ	2	教授 博士(理学) 田中 尚人	ナビエーストックス方程式の自由表面問題	
応用解析学特別研究Ⅱ	2			
(第2年次) 応用解析学特別研究Ⅲ	2			
応用解析学特別研究Ⅳ	2			
(第3年次) 応用解析学特別研究Ⅴ	2			
応用解析学特別研究Ⅵ	2			
(第1年次) 応用数理特別研究Ⅰ	2	教授 博士(理学) 桑江 一洋	マルコフ過程に付随する確率解析の研究	
応用数理特別研究Ⅱ	2			
(第2年次) 応用数理特別研究Ⅲ	2			
応用数理特別研究Ⅳ	2			
(第3年次) 応用数理特別研究Ⅴ	2			
応用数理特別研究Ⅵ	2			

研究指導科目

専修部門	授業科目	単位数	担当者	主な研究内容
応用数学	(第1年次) 情報数理特別研究Ⅰ	2	教授 博士(工学) 藤木 淳	コンピュータビジョンおよびパターン認識
	情報数理特別研究Ⅱ	2		
	(第2年次) 情報数理特別研究Ⅲ	2	教授 博士(情報科学) 松浦 望	幾何学的形状生成
	情報数理特別研究Ⅳ	2		
	(第3年次) 情報数理特別研究Ⅴ	2		
	情報数理特別研究Ⅵ	2		

特修科目

部門	授業科目	単位数	部門	授業科目	単位数
非 専 修	代数学特修講義	2	非 専 修	応用解析学特修講義	2
	位相数学特修講義	2		応用数理特修講義	2
	幾何学特修講義	2		数理情報特修講義	2
	解析学特修講義	2		応用数学特修講義Ⅰ	2
				応用数学特修講義Ⅱ	2

- 1 学生は、専修部門から一つの研究指導科目を選定し、これをその学生の専修科目とする。
- 2 学生は、専修科目担当者のうちの1人を主指導教員とし、専修科目及び学位論文の作成、その他研究一般についてその指導を受けるものとする。
- 3 前項のほか、学生は、主指導教員が定めた副指導教員の指導も受けるものとする。
- 4 学生の標準修業年限は3年とし、所定の授業科目のうちから、研究指導科目12単位、特修科目4単位以上、合計16単位以上を修得しなければならない。
- 5 前項の規定にかかわらず、優れた研究業績を上げた学生については、1年以上在学し、かつ、当該学生の在学期間に応じた所定の研究指導科目の単位数及び特修科目4単位以上を修得すれば足りるものとする。
- 6 主指導教員が必要と認めた場合は、他の専攻又は研究科の授業科目を履修し、これを特修科目の単位にあてることができる。
- 7 学生は、主指導教員を主査として、専修科目について博士の学位論文を提出し、論文審査及び最終試験に合格しなければならない。